

長野県木曾町との職員交流終了 見波さん、半年間お疲れ様でした！



4月より半年間、交流職員として産業課農林係でお世話になりました見波俊介です。

3月の終わりに雪が舞う中、車で福島町まで来ました。長野県には海がないので函館を過ぎて海岸線を走っている時は新鮮な気持ちで運転していました。

しかし、木古内、知内と進むにつれ、山に囲まれ、雪が降っていたこともあり、正しい道なのか不安になりながら福島町に着いたことを懐かしく思います。

最初は不安ばかりでしたが、職員の方々が町の案内や身の回りのことを気にし



てくれ、徐々に職場に慣れることができ、とても助かりました。

仕事では、有害鳥獣関連業務、小学校5年生を対象とした農業体験事業「福島町教育ファーム」や各種イベントに携わらせていただきました。

有害鳥獣関係は、ハンターさんと協力して箱わなを設置して、被害防止に取り組みました。しかしクマも頭が良く、箱わなをひっくり返して餌だけ食べるクマもいて、ハンターさんを悩ませていました。初めて捕獲されたヒグマを見た時は迫力に圧倒され、箱わなに近づくことができませんでした。

「福島町教育ファーム」では黒米の田植えと稲刈り、ブルーベリー狩りを体験してもらいました。裸足で田んぼの中に入るのをためらう子や泥だらけになりながら田植えをする子などいろんな子がいて、「木曾

の子どもたちと変わらないなあ」と感じました。

その他に会議やイベントで町民の方々と接する機会もありました。初めての会議では話している言葉が分からず、どんな意見が出て、どんな内容の話をしているのか全く分かりませんでした。ですが、半年間である程度は理解できるようになり、最近では農家の方と雑談でき、周りの影響で自分が方言を使っていることに気づきました。ゴミを「捨てる」ことを「投げる」など自然と使っており、いつのまにかすっかり福島町に馴染むことができました。



また、休暇の際は、小樽
↓札幌↓稚内↓網走↓根室
↓釧路↓帯広の順に北海道を一周してきました。改めて北海道が大きいことを実感しました。

半年間という短い間でしたが、福島町での出会いや経験したことは自分の財産となりました。また、お世話になった方々には本当に感謝しています。

今後はこの経験を活かし、木曾町と福島町との関係をさらに発展出来るよう、両町を繋ぐ架け橋となり貢献していきたいです。必ずまた福島町を訪れたいと思います。本当にありがとうございました。

